



マネックスグループ各社の社長が今後 の意気込みを語ります。

マネックスはお客さまにとって最善・最高のサービスを実現すべく、 グループ一丸となって邁進してまいりますので、今後ともどうぞよろしく お願いいたします。

新しくユニークなサービスを続々と




マネックス証券株式会社
代表取締役社長CEO
松本 大




<http://www.monex.co.jp/>

MONEYのYをひとつ進めてMONEX。
マネックスは未来の金融を実現しようとする会社です。既存の概念にとらわれずに、個人のための新しい価値・サービスを提供していく、ユニークでナンバーワンの会社になりたいと願っています。
創業時から続くこの理念を、今ふたたび磨きに磨いて、「MONEX VISION」をはじめとする新しくユニークなサービスをどんどん打ち出し、皆さまに驚いていただきたいと思っています。
これからもマネックス証券をよろしく願います！

充実したお取引環境で、FX取引を始めるなら今




株式会社マネックスFX
代表取締役社長
勝屋 敏彦




<http://www.monexfx.co.jp/>

マネックスFXでは、「たのしい」&「たのもしい」FX取引サービスのご提供をモットーに、様々なサービスを展開しております。上期には、チャートからマウス操作のみでご注文いただけるトレーディングツール「マネックスJoo」を無料提供し、お取引手段の充実化を図るとともに、お客さま限定の投資情報を強化しました。下期には「マネックスJoo」に、簡単に自動売買ができる「シストレメーカー」を搭載します。
今後もお客さまのニーズにお応えし、安心で気の利いたサービスを提供してまいります。

個人投資家の皆さまに、他にはない投資コンテンツを




株式会社マネックス・ユニバーシティ
代表取締役社長
内藤 忍




<http://www.monexuniv.co.jp/>

マネックス証券から独立してもうすぐ5年。マネックス・ユニバーシティは、ネット上で提供される動画サービス「MONEX CAMP」やオンラインセミナーのほか、書籍や雑誌を通じた情報発信を積極的に続けています。
投資は、続けるための仕組みづくりが重要だ、とマネックス・ユニバーシティは考えます。将来の不安を解消するために必要なお金。そんなお金を手にいれる最短距離を見つけるお手伝いをするのが、わたしたちの存在意義です。是非、ご活用ください。

機関投資家向けと同水準の投資機会を個人の方に




マネックス・オルタナティブ・インベストメンツ株式会社
代表取締役社長
水田 茂夫




<http://www.monexai.com/>

上期は、個人のお客さま向けオルタナティブ運用商品である「(愛称)プレミアム・ハイブリッド2010」の運用を開始しました。機関投資家向け運用も受託残高が50億円を超えて、「機関投資家向けと同水準の投資機会を個人のお客さまに提供する」というマネックスグループの目標を着実に実現しております。
下期も、世界水準の安定した運用成績を継続するとともに、独自のオルタナティブ運用を開発する運用会社として、更に皆さまのお役に立ちたいと考えております。

日本経済の活性化に貢献します




マネックス・ハンブレクト株式会社
代表取締役社長
松澤 修一




<http://www.mhinc.jp/>

マネックス・ハンブレクトは、グループ内ではやや異色の存在として、M&Aを中心としたアドバイザリー業務を提供しております。
本年は、特にグローバル市場での大型のM&Aが増加してきております。日本企業にとっても円高を活用した海外進出の大きなチャンスです。当社は、経営者の皆さまに本当に価値のあるサービスを提供するプティック型インベストメントバンクとして、グループの持つグローバルネットワークを活用し、日本経済の活性化に貢献してまいります。

最先端の金融工学を個人投資家の皆さまへ



トレード・サイエンス株式会社
代表取締役社長
国貞 和宏



<http://www.trade-sc.jp/>

最先端の情報工学を駆使して、金融工学との融合により個人投資家の方々に必要な投資環境を提供することを目指した事業を行っています。
「カプロボコンテスト」などを通じて集積された優秀な運用アルゴリズムをまとめて、投信会社と共同で公募投信を提供しております。FXの分野では、アクティブトレーダー向けに「マネックスJoo」を開発しました。
今後もお客さまのトレーディングの一助となりますようバージョンアップに努めてまいります。

マネックスグループ株式会社

設立 2004年8月
代表者 松本 大
資本金 10,393百万円 (2010年10月12日現在)
事業内容 金融商品取引業等を営む会社の株式の保有
所在地 〒100-6219 東京都千代田区丸の内1-11-1
パシフィックセンチュリープレイス丸の内19階
U R L <http://www.monexgroup.jp/>

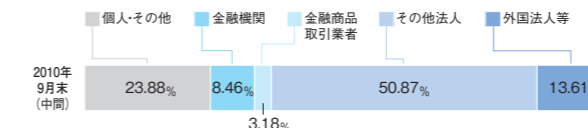
株式数および株主数 ※2010年9月30日現在の株主名簿による

発行済株式の総数 : 2,991,120株
株主数 : 42,451名

大株主の状況 (上位5名)

氏名又は名称	所有株式数(株)	所有株式数割合(%)
オリックス株式会社	673,002	22.50
シティグループ・ジャパン・ホールディングス株式会社	616,419	20.60
松本 大	260,480	8.70
ソニー株式会社	117,235	3.91
みずほ証券株式会社	89,734	3.00

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
期末配当基準日 3月31日
中間配当基準日 9月30日
定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL: 0120-232-7111 (通話料無料)
上場市場 東京証券取引所 第1部
証券コード 8698
公告方法 電子公告により行います。
公告掲載URL <http://www.monexgroup.jp/>
(ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)



第7期営業(中間)のご報告

2010年4月1日～2010年9月30日



マネックスグループ株式会社
代表取締役社長CEO

松本 大

企業価値の向上を見据えた諸施策を断行し、「金融の未来」を創造してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当中間期(第2四半期累計期間)における経営環境は、デフレの進行や個人投資家のリスク回避の傾向を背景に厳しい状況が続きました。また、わが国の金融業界にとって、内需に依存する旧来のビジネスモデルが終焉を迎える「質的变化」の時期でもあったと捉えています。日本の金融が新たな方向に舵を切るためのダイナミックな時代、チャンスの時代が到来したことを実感しています。

こうした環境認識のもと、当社グループは持続的な成長と企業価値の向上を図る各種施策を実行しました。

2010年5月には、当社の子会社であるマネックス証券とオリックス証券が合併し、新たなマネックス証券が誕生しました。合併によって顧客基盤の拡大とサービスラインナップの拡充を実現し、同時にコストの大幅な削減を達成しました。また、異なる企業文化の中で育った人材が融合することで組織力が一層強化されました。

2010年7月には、香港を本拠とするオンライン証券グ

ループであるBOOM証券グループの経営権取得を決定しました。BOOM証券は世界12ヶ国・地域の市場へのアクセスを提供しているプラットフォームであり、当社グループが中国をはじめとする世界のお客さまに存在をアピールしていく拠点とする計画です。加えて10月には、マネックス証券がオンライン証券会社としては世界で唯一となる中国本土での駐在員事務所を北京に開設しました。着実な拠点整備によって、当社グループのグローバル戦略は一段と加速しています。

かねて取り組んできた「知のインフラ」の構築も大きく前進しています。チーフ・ストラテジストを採用し、多角的かつ重層的な情報発信体制を完備するとともに、金融リテラシーの浸透を図るため「マネックス全国縦断投資セミナー」をスタートさせました。また、10月には、長期分散投資をサポートする資産設計アドバイスツール「MONEX VISION β」の提供(全口座保有者対象)を開始し、好評を得ています。ツールを日々改善し進化させていくという決意を示すため、あえて「β」の呼称を外していません。今後「MONEX VISION β」を英語化することなどで、海外展開の戦略ツールとして

MONEX will マネックスが目指すもの

■先進性の追求

お金との新しい付き合い方を提案し、金融の新たな領域を拓き続けます。

■お客様本位の徹底

お客様の声を企業活動の最大の指針とし、真に個人に必要とされる金融サービスを創り続けます。

■最良への挑戦

既存概念や旧来の価値観に決してとらわれることなく、お客様にとって最良の商品・サービスを提供し続けます。

も活用していく計画です。

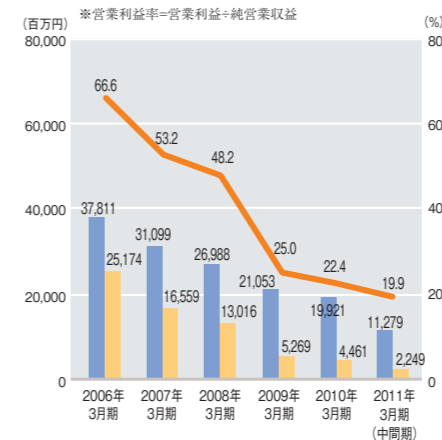
当中間期は、国際感覚を持った人材の育成、商品・サービスの改善、「知のインフラ」の進捗、世界展開の足掛かりとなる香港拠点の確保など、未来を見据えた重要施策を断行した点で、意義のある半期だったと考えています。2010年10月には、アジアにおけるビジネス拡大に向けた資金調達と、株式の流動性向上を目的として、新株式の発行および株式売出しも実施しました。

時代のトレンドを先取り、常に進化を続けていくこと。そして「自然な前傾姿勢」を忘れないこと。それが私たちマネックスグループの基本思想です。今後も筋肉質な企業体質の維持・強化に努め、株主の皆さまのご期待に応えてまいります。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

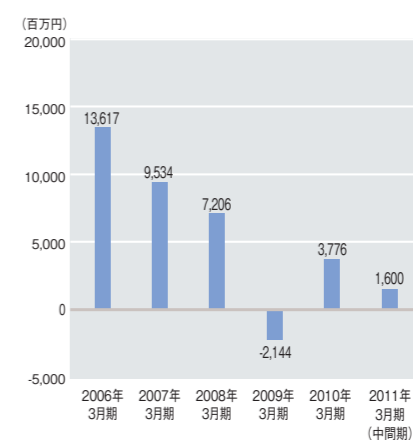
マネックスグループ株式会社
代表取締役社長CEO

松本 大

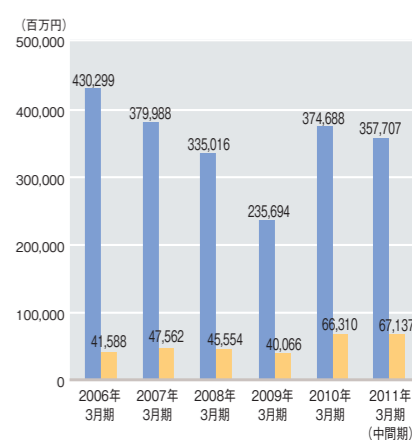
■純営業収益 ■営業利益 ■営業利益率※



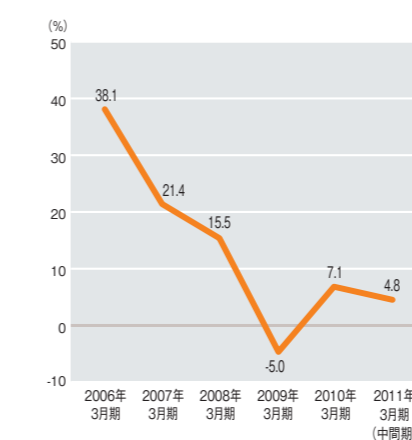
■当期純利益



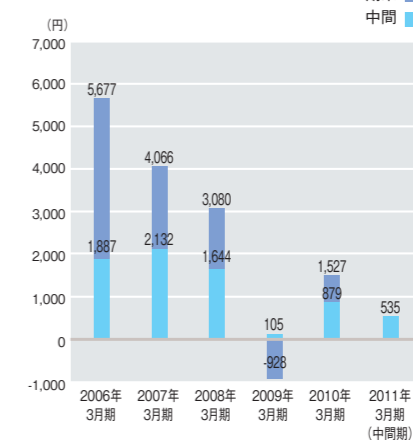
■総資産／純資産



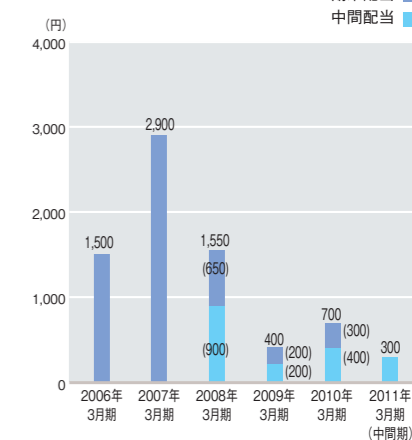
■自己資本当期純利益率(ROE)



■1株あたり当期純利益(EPS)



■1株あたり配当金額



当社グループ各社の取扱商品・サービス等に係る重要事項について

本資料は、マネックスグループ株式会社が半期ごとに作成する主に株主の皆さまにむけた営業のご報告です。本資料は、当社についての具体的な説明を行う上で必要な事項を記載したものであり、当社グループ各社が取り扱う商品・サービス等について推奨・勧誘するものではありません。当社グループ各社の取り扱う商品・サービス等には、各

社所定の手数料等のご負担が必要となる場合があります。また、各社の取り扱う商品・サービスごとに異なるリスクがあります。商品・サービス等の手数料等・リスクについては、当社グループ各社のウェブサイト上に掲載されている「重要事項の説明」「契約締結前交付書面」「目論見書」等にてご確認ください。